

*Fusion of inflammation with regenerative medicine**Nobuyuki Miyasaka**

炎症学と再生医学との融合

日本炎症・再生医学会理事長 宮坂信之*

この度、2007年4月より中畑龍俊理事長の後任として新理事長に就任致しましたので、ここにご挨拶致します。

当学会は、「炎症学、再生医学ならびに関連諸学の発展を図ることを目的とする」ために設立されました。当初は、昭和47年4月に「炎症研究会」として発足しましたが、昭和55年からは「日本炎症学会」に発展的に改称し、平成12年まで21回の学会と14回の炎症セミナー、さらに平成9年には第3回国際炎症学会(WCI1997)を開催することにより、日本の炎症学発展のためのパイオニア役を引き受けてきたと言っても過言ではないと思います。さらに平成12年にミレニアムプロジェクトに再生医学が採択されたことを受けて、炎症学会のさらなる発展と再生医学の研究成果の発表と討論の場を提供することを目的として、平成13年より「日本炎症・再生医学会」に改称しました。これは水島裕理事長(当時)(現名誉理事長)のご功績によるものであることは皆様ご存知であると思います。これによって、当学会は炎症学から再生医学にわたる広い領域をカバーするとともに、新たな学際的領域の形成に貢献して参りました。

炎症とは、さまざまな侵襲に対する生体の反応です。長い進化の過程で獲得した生体反応のひとつであるといえましょう。生体に外傷、感染などの侵襲が加わると、さまざまな分子や細胞が活性化され、発赤・腫脹・疼痛・発赤という炎症の4主徴がみられることになります。一方、炎症が遷延すると、肉芽腫の形成や線維化がみられるようになります。さらに、組織修復・再生というプロセスがこれに続きます。この一連のプロセスには、プロスタグランジン、プロテアーゼ、活性酸素、一酸化窒素、サイトカイン、ケモカインなどの炎症性メディエーター、さらにはさまざまな細胞内外に存在する多くの分子と種々の免疫細胞が複雑に関与します。この炎症は、病原体による外的侵襲のみならず、動脈硬化や癌でもみられますし、膠原病などでみられる自己に対する過剰な免疫応答でも起こります。したがって、この複雑な過程を遺伝子及び分子レベルで解明することは、炎症が関与する病態の早期診断につながるばかりか、これを逆手にとった「標的治療」を行うことも可能になります。そうすれば、これまで難病とされてきた多くの疾患の克服も夢ではありません。さらに、臓器の発生・分化のプロセスを分子及び遺伝子レベルで究明することは、炎症後の臓器再生や機能修復を考える上でも大きな意味がありますし、社会的要請でもあると思います。

この学会のもう一つの特色として、炎症学及び再生医学の発展を「産学協同」で行うことを目指していることが挙げられます。この学会を長年にわたって支援して下さる炎症研究振興会は、わが国の炎症分野をリードする34の製薬会社からなる組織です(平成19年7月現在)。炎症学及び再生医学は臨床への還元が強く求められる領域です。この点においては「産」と「学」が対等な立場で自由に知識と技術を交換してこそ、初めて大きな学問的進歩が得られるものと思います。

* Tokyo Medical and Dental University, Department of Medicine and Rheumatology 東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科学分野 教授

し、明日の臨床に生きる成果が上がるものと期待をしております。そして、当学会がそのような学術交流の「場」となることができれば、私にとって望外の喜びであります。

私は臨床家として、そしてまた研究者として、これまで炎症学に深く関わって参りました。そして、当初は *from bench to clinic* を目指して来ましたが、現在は *from clinic to bench* からの情報発信を目指す毎日です。私の専門分野の膠原病、特に関節リウマチの分野ではサイトカイン阻害薬の登場によって、治療のパラダイムシフトが劇的に起こりました。その結果、従来は車椅子や松葉杖に頼らざるを得なかった患者さんが、社会復帰を果たし、高いQOLを送ることが可能になりつつあります。また、再生医学の進歩に伴い、軟骨や骨の再生も夢ではなくなりつつあります。このような炎症学と再生医学の進歩を炎症性疾患の診療に還元できることを強く願っております。

平成21年には、再び本学会が第9回国際炎症学会（WCI2009）（松島綱治会長）を主催することになっております。当学会が今後ますます海外に向けて情報発信をすることが私の大きな願いです。皆様からのさらなるご指導・ご鞭撻をお願いしまして、私の挨拶と致します。

2007年12月